

第 1 学年 4 組 美術科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 桑野 遥

1 題材名 「見つめ感じ取り描く」

2 題材設定の理由

<p>【題材の価値から】</p> <p>本題材は学習指導要領解説美術編に示されている内容 B「鑑賞」のア(ア)「造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること」を受けて設定している。第一学年では、対象を細部まで見つめる時間を大切にし、自分の感覚で素直に味わう学習が必要であると示されている。さらに、自分の感じ取ったことや気付いたことなどについて、お互いに説明し合う中で、自分にはない新たな見方や感じ方に気付かせることは、鑑賞の視点を豊かにするだけでなく、互いの表現の良さや個性などを認め合い尊重し合う態度を育成するうえでも意義深い。本題材で取り扱う作品は、池田学の描いた「興亡史」である。本作は、マイクロ視点で見た時とマクロ視点で見た時とで、大きく異なる表情を見せる作品であり、全体が非常に細密に描かれている。緻密な描写は鑑賞者を技術的側面で圧倒するだけでなく、隅々まで遊び心ある様々な工夫が凝らされているため、時間をかけて鑑賞した際に飽きのこないようになっている。見応えある本作の鑑賞活動を通して、時間をかけて作品鑑賞することの面白さに気付かせると共に、造形的な要素を基に作者の意図について考えたことなどを互いに交流し合う中で、見方や感じ方を広げ、多くのものを感受し学び取るための資質・能力の向上を図りたい。</p>	<p>【生徒の実態から】</p> <p>本学級の生徒は、意欲的に美術の授業に取り組む姿があるが、美術作品の鑑賞経験は乏しい。本学級の生徒にアンケートを行ったところ、「1つの作品を20分以上鑑賞した経験はありますか」という問いに対して81%の生徒が、「ない」と答えていた。「作品を鑑賞する時、作者が何を伝えようとしているかを考えていますか」という問いに対して90%の生徒が「していない」もしくは「あまりしていない」と答えていた。この結果から、多くの生徒が作品を短時間で表面的にしか鑑賞できておらず、全体の大まかな印象をとらえるにとどまっていることが分かる。また、これまでの授業様相からは、考えたことや、気付いたことなどに自分としての根拠をもたせ表現することにも課題が見られた。そのため、本題材では一つの作品を時間をかけて鑑賞させ、全体・細部を交互に見比べることを通して作品の造形的なよさや美しさを感じ取らせたい。また、造形的な要素を基に作者の意図について考えたことなどを自分としての根拠をもって、他者に説明させることで、作品への理解を深め、見方や感じ方を広げさせたい。そこで、作品鑑賞の際にはミッケという活動を仕組むことで、鑑賞活動をゲーム感覚で楽しむことができるようにし、学習意欲を喚起したいと考える。さらに、ICT機器を用いて作品を拡大・縮小しながら鑑賞活動を行わせ、全体や細部の造形的な要素を見つけさせることで、深い学びにつなげていきたい。</p>
<p>【題材の指導にあたって】</p> <p>本題材では、作者の意図について、作品の造形的な要素を基に考察し合うことで、より深く作品を鑑賞し、見方や感じ方を広げることができるようにすることをねらいとしている。本題材を通して、「作品をより深く鑑賞することによって見つかる新たな見方や感じ方」に気付くことは、鑑賞に親しみ、美術を愛好していく心情を培うことや、今後の美術の学習への意欲向上へとつながるため、大変意義深いと考える。</p> <p>本題材の指導にあたっては、まず、学習の深まりを実感させるために、表面的な作品鑑賞を見通す段階で行わせておく。また、実寸大作品を壁面掲示することで、本物と対峙しながら鑑賞する経験をさせる。さらに、アンケート結果からめあてをつくらせ、課題意識をもたせる。つくる段階では、作品を細部まで楽しく鑑賞させるためミッケという活動を行わせる【着眼1】。その際、タブレットで実寸大の作品画像を拡大・縮小しながら鑑賞させたり、新しい課題を用意したりすることで、作品を余す所なく細部まで鑑賞させるようにする【着眼1】【着眼2】。深める段階では、作品の造形的な要素を基に作者の意図について考察し、交流し合うことで、自分にはない新たな見方や感じ方に気付かせる。その際、電子黒板に作品を映し出しておき、何を基に作者の意図を考察したのかを視覚的にとらえることができるようにする【着眼2】。振り返る段階では、学んだことなどを確認させることで、生徒が学習の成果を実感し、学習意欲を向上させることにつながると考える。</p>	

3 題材の目標

- 造形的な要素が感情にもたらす効果や、細密画の特徴を理解することができる。
【知識及び技能】
- 作者の意図について、造形的な要素を基に自分なりの根拠をもって説明することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 自分の見方や感じ方を大切にしながら、楽しく鑑賞活動に取り組もうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 2 時間）

時間	学習活動	評価規準
本時 1/2	1 「興亡史」を鑑賞し、作者の意図について考察し、交流する。	□ 作者の意図について、造形的な要素を基に、自分なりの根拠をもって説明している。 【思考・判断・表現】
2/2	2 池田学の描いた別の作品や、細密画を描く他の画家の作品を鑑賞する。	□ 造形的な要素である形や色彩が感情にもたらす効果について、理解している。また、細密画の特徴について理解している。 【知識・技能】 □ 作品の造形的な要素にとどまらず、作者の意図や工夫、制作の背景などから作品のよさや美しさを味わおうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和 7 年 7 月 3 日（木） 第 5 校時 於：第一音楽室

（1）主眼

作者の意図について、作品の造形的な要素を基に自分なりの根拠をもって説明し合う活動を通して、より深く作品を鑑賞し、見方や感じ方を広げることができるようにする。

（2）研究の視点

【着眼 1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

- ① 作品鑑賞への意欲を高めるために、電子黒板で作品を表示したのち、実寸大サイズの作品を壁面に提示し、細部まで鑑賞できるようにする。電子黒板では見えていなかった細部が実寸大では見えることに気付かせる。
- ② 学習意欲を喚起するために、アンケート結果を提示し、課題意識をもたせる。
- ③ 作品を細部まで楽しみながら鑑賞させるために、ミッケというゲームを通して鑑賞活動を行わせる。

【着眼 2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするための ICT 機器の効果的な活用

- ① 造形的な要素や特徴をとらえさせるために、作品を拡大・縮小しながら鑑賞活動ができるようタブレットを活用させる。
【活動の効率化】
- ② 全体交流の際に、考えを視覚的にとらえさせるために、電子黒板を活用させる。
【考えの共有】

(3) 準備

学習プリント、タブレット、電子黒板、壁面掲示用の実寸大の作品

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)	配時
見 通 す	1 電子黒板に映された作品を見て、作者がこの作品で何を表現しているのか予想する。 2 壁面に提示された実寸大の作品を見る。 3 クラスのアンケート結果からめあてをつくる。	○ 学習の深まりを実感させるために、表面的な作品鑑賞を見通す段階で行わせておく。 ○ 作品鑑賞への意欲を高めるために、電子黒板では見えていなかった細部が実寸大の作品では見えることに気付かせる。 【着眼1①】 ○ 課題意識をもたせるために、アンケート結果を基にめあてをつくらせる。 【着眼1②】	5 分
	めあて より深く作品鑑賞をするために、作品を細部まで鑑賞し、作者が表現したかったことを、理由とともに説明しよう。		
つ く る	4 ミッケを行う。 (1) 個人でミッケを行う。 (2) 班で答え合わせを行う。	○ 作品を細部までじっくりと楽しく鑑賞させるために、ミッケという活動を行わせる。 【着眼1③】 ○ 細部まで見ることができるよう、タブレットを用いて実寸大の作品画像を拡大・縮小しながら鑑賞できるようにする。 【着眼2①】 ○ 作品を鑑賞する時間をより増やすために、ミッケが早く終わった生徒に新しい問題を用意しておく。 ○ 作者の意図へと迫っていくために、ミッケで見つけたもの以外にも様々なものが描かれていることに気付かせる。	15 分
深 め る	5 作品に描かれているものを基に作者が伝えたかったことを考え、プリントに記入する。	○ 作品の細かい部分だけに思考がとられないようにするために、全体にも目を向けるよう声かけを行う。	15 分
	予想される生徒の反応 ・侍が戦っているから、「戦い」を表現しているのかな。 ・大きなお城や大きな木の上で戦っているから、戦いが大きかったことを表現しているのかも。		

まとめ 振り返る	<p>6 作者の意図について全体交流を行う。</p> <p>7 作者が表現したかったことを学習する。</p>	<p>○ 何を基に作者の意図を考察したのか視覚的にとらえることができるように電子黒板に作品を映し出ししておく。 【着眼2②】</p> <p>○ 学びの達成感を味わわせるために、自分の考察と作者の意図が合っていないなくても、自分にはない新たな視点に気付くことで、より深く作品を鑑賞できていることを伝える。</p> <p>※ 作者の意図について、全体・細部の両方の視点から自分なりの根拠をもって説明をすることができている。 (学習プリントの記述) 【思考・判断・表現】</p>	10分
	<p>8 本時のまとめを行う。</p> <div data-bbox="277 853 1331 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 全体や細部の造形に着目しながら鑑賞することで、作者の意図へとせまり、作品をより深く鑑賞することができた。</p> </div>		5分
	<p>9 本時の学習を振り返る。</p>		

第2学年4組 数学科学習指導案(発展コース)

直方市立直方第二中学校

指導者 古川 雄太郎

1 単元名 「連立方程式」

2 単元設定の理由

<p>【単元の価値から】 第1学年では、一元一次方程式について、式の中の文字や解の意味を理解し、その解き方を活用することについて学習している。学習指導要領解説数学編では、「第2学年では、第1学年で学習の上で、二元一次方程式とその解の意味や連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるように示されている。その加減法や代入法による手順を適切に選び、表現する機械的計算手順と「解の意味」の必要性が重要である。連立二元一次方程式において、数量の関係を表す日常生活や事象を連立二元一次方程式を用いていくことで、深めただけでなく、様々な場面に数式と表を対比し、その場面から条件を抽出し、数学の場には、数式と表を対比する能力を育んでいくことが、今後の数学的思考力や観察力も重要なことである。</p>	<p>【生徒の実態から】 本学年では、習熟度別少人数による授業を、発展コースと基本コースの2クラスに分けて実施している。本単元の学習をするにあたり、一次方程式の分野で事前に小テストを行った。本学級の結果は以下のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">問題</th> <th style="text-align: center;">正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>$3x = 21$</td> <td style="text-align: center;">96.2%</td> </tr> <tr> <td>$6x - 11 = 7$</td> <td style="text-align: center;">84.6%</td> </tr> <tr> <td>$2(x - 1) = x + 3$</td> <td style="text-align: center;">80.8%</td> </tr> <tr> <td>$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$</td> <td style="text-align: center;">53.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。</td> <td style="text-align: center;">正誤を問わず文字を使って立式している</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80.0%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">論理的に正しく解答をすることができた</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">17.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>発展コースでは、一次方程式の基本的な計算問題の正答率は高いが、小数や分数を含む計算にはやや課題が見られる。また、文章問題から文字を使って立式しようとした生徒は80.0%であったが、正しく立式ができた生徒、手順通りに正しく解答を表現できた生徒は共に17.8%であった。このことから、計算に関する基本的な知識・技能はおおむね身に付いている。しかし、自分の考えを論理的に説明することにおいては、十分にできていない生徒が多く課題が見られる。</p> <p>これらの結果は、これまでの学習で文字式や等式の基本的な計算方法の習得をさせることはできたが、文章で表された数量関係を方程式で表すことを十分に習得させることができなかつたためだと考える。そのため、連立二元一次方程式の利用を学習するにあたって、グループごとに連立二元一次方程式を利用する問題を解き、解説をつくり、オリジナル問題を作る活動を設定することで、未知数を文字で表し、筋道を立てて考え、解答を作成する流れを理解させたい。また、生徒が作成したオリジナル問題を解くことで、学習意欲を喚起したいと考え、さらに、単元を通してICT機器を用いてまとめ振り返りを行い、必要な時に見返すことで、自分の考えを進める手立てにできると考える。</p>	問題	正答率	$3x = 21$	96.2%	$6x - 11 = 7$	84.6%	$2(x - 1) = x + 3$	80.8%	$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$	53.8%	1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。	正誤を問わず文字を使って立式している	80.0%	論理的に正しく解答をすることができた		17.8%
問題	正答率																
$3x = 21$	96.2%																
$6x - 11 = 7$	84.6%																
$2(x - 1) = x + 3$	80.8%																
$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$	53.8%																
1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。	正誤を問わず文字を使って立式している																
	80.0%																
	論理的に正しく解答をすることができた																
	17.8%																
<p>【単元の指導にあたって】 本単元は、二元一次方程式とその解の意味、二元一次方程式を連立させることの必要性和意味及び連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるようにすることがねらいである。</p> <p>第一次～第三次においては、二元一次方程式とその解の意味や連立二元一次方程式の必要性和解の意味を理解させる。また、連立二元一次方程式の解法を考えさせる。二つの文字のうち一方の文字を消去すれば既習の一元一次方程式に帰着させて解決できることに気付かせ、解決の見通しをもたせ、加減法や代入法による解き方について考察し表現することができるようにする。</p> <p>第四次の「連立方程式の利用」では①代金や料金、②道のり・速さ・時間、③割合のそれぞれについて具体的な場面での問題を扱う。その際、前時までに生徒を代金、道のり・速さ・時間、割合の担当を決め、グループに分ける。そして、その担当した問題の学習を行い、他の生徒が納得できる解説を作成させる。また、他の問題を担当する生徒が問題を解く際に、必要なヒントカードの作成と生徒の理解を深めるために、オリジナル問題の作</p>																	

成も行わせる。本時では、まず、連立二元一次方程式を利用する具体的な場面での問題を解く。次に、前時までに作成している解説のスライドを使い、解説をさせる【着眼1①】。その後、生徒が作成したオリジナル問題の中から挑戦したい問題を選んで解き、作成者に採点してもらうことで、学習意欲の継続を図る【着眼1②】。「一人学び」の際に、自分の考えをつくる手立てとして、単元を通して行ったまとめや振り返りを見返すことができるようにする【着眼2】。この単元を通して連立二元一次方程式を利用するいくつかの問題を解き、解説し合うことで、問題解決を行うにあたり、どのような手順で解答を作成すればよいのかを考え、身に付けるきっかけにさせたい。また、筋道を立てて考え、解答を作成することで、分かりやすい解説を作成できるというメリットがあるということを生徒たちに実感させたい。

3 単元の目標

- 二元一次方程式の解の意味を理解することができる。また、連立二元一次方程式の必要性とその意味及び解の意味を理解し、簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
【知識及び技能】
- 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。また、連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数 14 時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 2時	1 二元一次方程式とその解の意味を理解する。 2 連立二元一次方程式とその解の意味を理解する。	□ 二元一次方程式とその解の意味を理解し、連立方程式の解を確かめることができる。 【知識・技能】
第二次 4時	3 文字を1つ消去することで、連立二元一次方程式を一次方程式と関連づけて解くことができることを理解する。 4 加減法によって、連立二元一次方程式を解く。 5 代入法によって、連立二元一次方程式を解く。	□ 連立二元一次方程式を、一方の文字を消去し既習の一元一次方程式に帰着させ解くという方法を考え、説明することができる。 【思考・判断・表現】 □ 加減法によって、連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 代入法によって、連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】
第三次 3時	6 かっこのある連立二元一次方程式の解き方を理解する。 7 係数に分数や小数をふくむ連立二元一次方程式の解き方を理解する。 8 $A=B=C$ の形をした方程式の解き方を理解する。	□ かっこを含む連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 係数に分数をふくむ連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 連立二元一次方程式を解く際に、計算しやすいように係数を工夫することができる。 【思考・判断・表現】 □ 連立二元一次方程式を解く際に、加減法、代入法のどちらを用いるか判断し、その理由を説明できる。 【思考・判断・表現】 □ $A=B=C$ の形をした方程式を解くことができる。 【知識・技能】
第四次 5時 本時 4/5	9 具体的な問題場면을解決するために、連立二元一次方程式を利用することを学び、問題を解決する。 (料金、道のり・速さ・時間、割合)	□ 連立二元一次方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する方法を理解している。 【知識・技能】 □ 連立二元一次方程式を具体的な場面で利用し、解決する方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】 □ 解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けしたり活用したりすることができる。 【思考・判断・表現】 □ 連立二元一次方程式のよさを実感して粘り強く考え、連立二元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和7年7月3日(木) 第5校時 於: 2年4組教室

(1) 主眼

連立二元一次方程式を活用して解く問題を、相互に説明・解決し合う活動を通して、問題の構造を理解するとともに、解答を作成する手順を理解し、多様(料金、道のり・速さ・時間、割合)な問題に対応することができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】 単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

- ① 本時の学習意欲を喚起するために、タブレットを使い、前時までに考えが進まない生徒に向けてヒントカードを作成させたり、問題ごとに各グループが生徒同士で解き方の説明を行えるよう解説を作成させたり、オリジナル問題の作成をさせたりする。
- ② 学習意欲を継続させるために、クラスメイトが作ったオリジナル問題をロイロノートの資料箱から選び、それぞれが挑戦したい問題を選択し、解かせる。

【着眼2】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

必要な時に見返し、考えを進める手立てにするために、プリント毎にロイロノートにまとめと振り返りをさせる。(データの蓄積)

(3) 準備 学習プリント、電子黒板、タブレット

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)	配時
見 通 す	1 前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○ 生徒とめあてを共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。	5 分
	めあて 筋道を立てた解答をつくることができるようになるために、解けるようになりたい問題を選び、挑戦しよう。		
つ く る	2 問題を解く。 (1) 問題を個人で解く。 (2) グループの友達に説明をする。 *これを3回繰り返す。	○ 考えを進める手立てにするために、これまでのまとめや振り返り、生徒が作成したヒントカードを参考にさせる。【着眼2】 ○ 分かりやすい解説を行うために、前時までに作成したスライドを使う。【着眼1①】	20 分

深める	<p>3 オリジナル問題を解き、採点する。</p> <p>(1) オリジナル問題を選び、解く。</p> <p>(2) 問題作成者が採点を行う。</p>	<p>○ 問題を解く意欲を喚起するために、生徒が作成したオリジナル問題から挑戦したい問題を選び、解く。 【着眼1②】</p> <p>※ 具体的な場面において連立方程式を活用し問題を解決することができる。(学習プリントの記述) 【思考・判断・表現】</p>	15分
まとめる	<p>4 本時のまとめを行う。</p> <div data-bbox="263 683 821 963" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない数量を、文字を使って表す。 ・連立方程式を立てる。 ・連立方程式を解く。 ・たしかめをする。 ・答えをかく。 </div>	<p>○ 本時のまとめを行うために、すべての問題を解くにあたり、共通していた解説の手順を確認する。</p>	5分
<div data-bbox="263 996 1316 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 未知数が2つであっても、数量関係を表す等式を2つ作ることができれば、連立方程式を利用して問題を解くことができる。</p> </div>			
振り返る	<p>5 本時の振り返りを行う。</p> <div data-bbox="263 1232 821 1635" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作った問題を解くことができ、意欲的に取り組むことができた。 ・友達が作ったスライドを使って説明してくれたので、分かりやすかった。 ・友達の解説やヒントカードを見て、立式の方法が分かった。 </div>	<p>○ 本時の学習内容で理解できたことを確認するために、振り返りを行わせる。</p>	5分

第2学年4組 数学科学習指導案（基本コース）

直方市立直方第二中学校
指導者 矢羽田 美奈子

1 単元名 「連立方程式」

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から] 第1学年では、一元一次方程式について、式の中の文字や解の意味を理解し、その解き方を考察することや具体的な場面で活用することについて学習している。</p> <p>学習指導要領解説数学編では、「第2学年では、第1学年での学習の上に立って、二元一次方程式とその解の意味や二元一次方程式を連立させることの必要性と意味及び連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるようにする。さらに、連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができるようにすること」と示されている。そのことから、加減法や代入法による解き方の手順を理解し、状況に応じて適切に選び、表現できるようにする。また、指導においては、単なる機械的な計算手順の習得にとどめず、「解の意味」や「連立させることの必要性」について生徒が理解できるようにすることが重要である。連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することにおいては、生徒が条件を整理し、数量の関係を式に表現する力を育てる必要がある。</p> <p>日常生活や事象を数学的な見方でとらえ、連立二元一次方程式を用いて表現・処理し、解決していくことは、内容の理解を深めるだけでなく、数学の有用性を感得させるものである。また、様々な場面に出会った時にも、その場面から条件を抽出し、数学の場にのせ、数式として表現する能力を育てていくことは、今後の数学的な思考力と活用能力を伸ばさせていく観点からも重要なことである。</p>	<p>[生徒の実態から] 本学年では、習熟度別少人数による授業を発展コースと基本コースの2クラスに分けて実施している。</p> <p>本単元の学習をするにあたり、一次方程式の分野で事前に小テストを行った。本学級の結果は以下のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">問題</th> <th style="text-align: center;">正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">$3x = 21$</td> <td style="text-align: center;">27.3%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$6x - 11 = 7$</td> <td style="text-align: center;">18.2%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$2(x - 1) = x + 3$</td> <td style="text-align: center;">9.1%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$</td> <td style="text-align: center;">0.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。</td> <td style="text-align: center;">正誤を問わず文字を使って立式している</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9.1%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">論理的に正しく解答をすることができた</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>基本コースでは、一次方程式の基本的な計算問題の正答率が低く課題が見られる。方程式を利用する問題においては、文字を使用して考えようとした生徒は一人しかおらず、11人中5人の生徒が無回答であった。このことから、具体的な事象について考える問題において、方程式の意味や解がもつ意味を理解し表現できる生徒はほとんどいないと思われる。また、立式ができて、方程式を解くことができない状態であることがわかる。</p> <p>そのため、連立二元一次方程式を解く学習では、加減法を中心に簡単な連立二元一次方程式を解くことができるように進めていきたい。また、連立二元一次方程式の利用を考える場面では、代金や料金の問題を繰り返し解くことで、連立二元一次方程式を具体的な場面でどう活用することができるのか、方程式の解を求めることで、その解のもつ意味が自分の求める情報とどうつながっているのかを理解させていきたい。また、日常生活の場面における問題の作成を通して、「数学が使える場面」に気付かせることで学習意欲を喚起したいと考える。さらに、ICT機器を活用し、これまでの学習内容を振り返らせることで、自分の考えを深める力を高められると考える。</p>	問題	正答率	$3x = 21$	27.3%	$6x - 11 = 7$	18.2%	$2(x - 1) = x + 3$	9.1%	$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$	0.0%	1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。	正誤を問わず文字を使って立式している	9.1%	論理的に正しく解答をすることができた		0.0%
問題	正答率																
$3x = 21$	27.3%																
$6x - 11 = 7$	18.2%																
$2(x - 1) = x + 3$	9.1%																
$\frac{2x - 7}{3} = \frac{x + 1}{2}$	0.0%																
1個130円のプリンと1個100円のゼリーをあわせて10個買い、1120円払いました。プリンとゼリーの個数を、それぞれ何個買ったか求めなさい。	正誤を問わず文字を使って立式している																
	9.1%																
	論理的に正しく解答をすることができた																
	0.0%																
<p>[単元の指導にあたって] 本単元は、二元一次方程式とその解の意味、二元一次方程式を連立させることの必要性と意味及び連立二元一次方程式の解の意味を理解し、解を求めることができるようにすることがねらいである。</p> <p>第一次～第三次においては、二元一次方程式とその解の意味や連立二元一次方程式の必要性と解の意味を理解させる。また、連立二元一次方程式の解法を考えさせる。二つの文字のうち一方の文字を消去すれば既習の一元一次方程式に帰着させて解決することに気付かせ、解決の見通しをもたせ、加減法や代入法による解き方について考察し表現することができるようにする。</p> <p>第四次の「連立方程式の利用」では①代金や料金、②道のり・速さ・時間、③割合のそれぞれについて具体的な場面での問題を扱う。基礎コースのほとんどの生徒が、未知数を文字</p>																	

を使って表すことの有用性を実感できていない。そのため、未知数を文字を使って表すことで、問題の解決が容易になることを理解させたい。本時の学習においては、与えられた問題を解くのではなく、自ら連立二元一次方程式を利用する問題を作成することで連立二元一次方程式を利用する問題に関心をもたせる。また、問題作りをすることで、自分の作成する問題が適切な内容になっているかを考えさせ、解答を作ることで自分の考えを表現させる【着眼1①】。その後、作成した問題をロイロノートの共有機能を使い表示する【着眼2②】。その中から自分が挑戦したい問題を選択し、解かせることで、学習意欲の継続を図る。問題が解けた生徒は、解答を出題者に採点してもらおう【着眼1②】。

この学習をきっかけに、特定の数量に着目して、文字を使って表し、とらえた数量の関係を明らかにし式をつくることが問題解決にとって大切なことだと気付かせたい。

3 単元の目標

- 二元一次方程式の解の意味を理解することができる。また、連立二元一次方程式の必要性とその意味及び解の意味を理解し、簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
【知識及び技能】
- 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。また、連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数 14 時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 2時	1 二元一次方程式とその解の意味を理解する。 2 連立二元一次方程式とその解の意味を理解する。	□ 二元一次方程式とその解の意味を理解し、連立二元一次方程式の解を確かめることができる。 【知識・技能】
第二次 4時	3 文字を1つ消去することで、連立二元一次方程式を一次方程式と関連付けて解くことができることを理解する。 4 加減法によって、連立二元一次方程式を解く。 5 代入法によって、連立二元一次方程式を解く。	□ 連立二元一次方程式を、一方の文字を消去し既習の一元一次方程式に帰着させ解くという方法を考え、説明することができる。 【思考・判断・表現】 □ 加減法によって、連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 代入法によって、連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】
第三次 3時	6 カッコのある連立二元一次方程式の解き方を理解する。 7 係数に分数や小数をふくむ連立二元一次方程式の解き方を理解する。 8 $A=B=C$ の形をした方程式の解き方を理解する。	□ カッコを含む連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 係数に分数をふくむ連立二元一次方程式を解くことができる。 【知識・技能】 □ 連立二元一次方程式を解く際に、計算しやすいように係数を工夫することができる。 【思考・判断・表現】 □ 連立二元一次方程式を解く際に、加減法、代入法のどちらを用いるか判断し、その理由を説明できる。 【思考・判断・表現】 □ $A=B=C$ の形をした方程式を解くことができる。 【知識・技能】
第四次 5時 本時 4/5	9 具体的な問題場면을解決するために、連立二元一次方程式を利用することを学び、問題を解決する。 (料金、道のり・速さ・時間、割合)	□ 連立二元一次方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する方法を理解している。 【知識・技能】 □ 連立二元一次方程式を具体的な場面で利用し、解決する方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】 □ 解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けしたり活用したりすることができる。

		【思考・判断・表現】
		□ 連立二元一次方程式のよさを実感して粘り強く考え、連立二元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和7年7月3日(木) 第5校時 於：少人数教室

(1) 主眼

連立二元一次方程式を利用して解くことができる個数や代金についての問題を作成する活動を通して、作成した問題が適切であるかを他者と交流させながら、問題を解決することができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

- ① 連立二元一次方程式を利用する問題に関心をもたせるために、与えられた問題を解くのではなく、自ら連立二元一次方程式を利用する問題を作成させる。
- ② 学習意欲の継続を図るために、友達が考えた問題の中から、自分が挑戦したい問題を選び解かせる。また、解いた後は、出題者に採点させる。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

- ① 「一人学び」の際に、いつでも前時までの学習内容を振り返ることができるようにするために、学習内容をロイロノートにまとめさせる。(データの蓄積)
- ② 「協働学び」において、全員の問題の中から、自分が挑戦したい問題を選ばせるために、ロイロノートの共有機能を活用する。(情報の共有)

(3) 準備 学習プリント、電子黒板、タブレット、問題作成シート

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)	配時
見 通 す	1 前時までの学習を振り返る。 (1) 加減法の小テスト(2問)を解く。 (2) 前時の課題を振り返る。	○ 立式ができたときに、連立二元一次方程式が解けるようにさせるために、加減法の解き方の復習をする。 ○ 問題作成や立式ができるようにするために、前時の課題を復習する。	7分
	2 本時の課題を把握し、めあてをつくる。	○ 生徒とめあてを共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。	3分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 連立方程式を利用できるようになるために、連立方程式を使う問題を作ったり、友達の問題を解いたりして、問題を解決できるようになる。 </div>		

つくる	<p>3 連立二元一次方程式の利用の問題をつくる。</p> <p>(1) 個人で問題と解答を作成する。</p> <p>(2) 問題をロイロノートで提出する。</p>	<p>○ 与えられた問題を解くのではなく、自ら連立二元一次方程式を利用する問題を作成させる。【着眼1①】</p> <p>○ 考えを進める手立てにするために、これまでのまとめや振り返り、を参考にする。【着眼2①】</p> <p>○ 全員が問題を作成できるようにするために、必要な生徒には問題作成シートを利用させる。</p> <p>○ 全員が問題を確認することができるようにするために、ロイロノートの共有機能を活用する。【着眼2②】</p>	10分
深める	<p>4 挑戦したい問題を選んで解く。</p> <p>(1) 個人の考えをつくる。</p> <p>(2) 自分の解答を出題者に採点してもらう。</p> <p>(3) 全体で連立二元一次方程式を利用する問題の共通点や注意点を考えて交流する。</p> <div data-bbox="300 1133 820 1366" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わからない数量が2つ。 ・ 等式が2つ必要。 ・ 個数や値段は整数になるように問題を考える必要がある。 </div>	<p>○ 全員の問題の中から、自分が挑戦したい問題を解かせる。【着眼1②】</p> <p>○ 解答ができた生徒は、自分の解答を出題者に採点してもらう。【着眼1②】</p> <p>○ 本時のまとめを行うために、連立二元一次方程式を利用する問題の共通点や注意点を考えさせる。</p> <p>※ 具体的な場面において連立二元一次方程式を活用し問題を解決することができる。(学習プリントの記述) 【思考・判断・表現】</p>	20分
まとめる	<p>5 本時の学習をまとめる。</p> <div data-bbox="274 1478 1331 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>未知数が2つであっても、数量関係を表す等式を2つ作ることができれば、連立方程式を利用して問題を解くことができる。</p> <p>個数や代金を求める問題を作成するときには、個数や代金が整数になるように考えることが必要である。</p> </div>		5分
振り返る	<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 本時の学習内容で理解できたことを確認するために、振り返りをさせる。</p>	5分

第3学年5組 社会科学学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 坂口 ひかり

1 単元名 「二度の世界大戦と日本」(第二次世界大戦と日本の敗戦)

2 単元設定の理由

<p>〔単元の価値から〕 本単元は学習指導要領解説社会編中項目「近代の日本と世界」(カ)第二次世界大戦と人類への惨禍を取り上げ、一つの単元として構成したものである。学習指導要領解説には、「工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること」と示されている。これらの学びを実現するために本単元では、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治、経済、外交の動きなどの事象を相互に関連付けて、多面的・多角的に考察することを学習内容としている。</p> <p>私たちの生きる現代社会が、なぜ今のような仕組みなのかを知るためには、戦時中の日本の政治や経済の仕組み、外交関係、戦争が与えた影響などについて学び、当時の社会構造に着目させる必要がある。また、今年には戦後80年という節目の年でもあり、戦争の惨禍から私たちが学ぶことは多くあると考える。「平和の尊さ」や「戦争の悲惨さ」をおさえううえで、なぜ、沖縄戦や二度にわたる原爆投下といった悲惨な結末を迎えるまで日本が戦争をやめることができなかつたのかを、歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、表現することは、平和を尊重する思考や思いを育むうえで大変意義深い。</p>	<p>〔生徒の実態から〕 本学級の生徒は、中学校1・2年生時の平和学習において、「原爆投下」や「沖縄戦」について学んでいるため、戦争によってもたらされる命の犠牲や人々の苦しみについて、ある程度の理解やイメージをもっている。しかし、事前にとったアンケートでは、「なぜ昭和時代、日本は戦争を始めたのか」という質問に対し、「自信があったから」や「強いことを証明したい」など、心理的な要素に着目した回答が多く、経済的要因や国際情勢など、多面的・多角的に考えることができていない生徒が多いことが分かった。次の「社会的事象について様々な視点から考えることのメリットは何か」という質問に対し、「多様な価値観が生まれる」や「物事を深く考えることができる」などと回答しており、社会科学学習の魅力に気付いている生徒は多いことが分かった。しかし、「自分の考えを発表したり、伝えたりすることは得意か」という質問に対しては、65%が「いいえ」と回答した。その理由は「自信がないから」や「話すことが苦手」などが挙げられたが、「少人数なら発言できる」や「ICT機器を通してなら発言できる」と回答した生徒が77%いた。このことから、考えや意見をもっている、広げたり、深めたりすることに課題があることが分かる。</p> <p>以上のことから、ICT機器の活用とグループでの意見交換を通して、多面的・多角的に思考させたり、生徒が考えを表現やすくしたりできるように単元の学習を工夫していきたい。</p>
<p>〔単元の指導にあたって〕 本単元は、満州事変からポツダム宣言を受諾するまでの約15年間、日本が戦争をやめることができなかつた原因について、政治や経済など様々な視点と軍部や政府といった様々な視座から考察させることがねらいである。</p> <p>本単元の指導にあたっては、第一次では15年間続いた戦争の結末や犠牲について学習し、「なぜ、日本は15年もの間、戦争をやめることができなかつたのだろうか」という単元課題を提示し、予想させる。その際、予想したものからまとめるにあたって必要な視点や視座を生徒たち自身に決定させることで、多面的・多角的な学びになるように構成する。その後、戦争に向かう世論について、世界恐慌や強まる軍部が国民の生活に与えた影響などを関連付けて考察させる。その際、学びのつながりを意識しながら自分の学習を進めるために、一単位時間ごとに単元課題に対するまとめの手掛かりとなる学習の学びをPadletに蓄積させていく。また、相互参照・相互評価ができるため、学習内容の理解を深めたり、他者の意見を取り入れたりすることができる。次に、第二次では第二次世界大戦の惨禍について、日本と世界各国との関係性や被害の大きさについて資料を用いて理解させる。その際、第二次世界大戦の被害の大きさに気付きやすくするために、既習事項である日清・日露戦争や第一次世界大戦の資料と比較させる。最後に第三次では、単元課題に対するまとめをICT機器を用いて行う。その際、第一次で決定した視点や視座に分かれて考察する【着眼1①】。その後、Padlet上で視点及び視座別のグループで共有させることで、気付けなかつた要素を取り入れて再考察したものを班で共有する【着眼2】。そして、それぞれの原因の比率を考察、説明させ、互いに評価を行わせる【着眼1②】。</p> <p>以上のような学習過程を経て、本単元のねらいを達成するとともに、平和で民主的な社会の担い手として、主体的に考える力を身に付けさせたい。</p>	

3 単元の目標

- 昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・経済・外交の動き、中国などのアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できる。 【知識及び技能】
- 第二次世界大戦が起こった背景や戦時中の社会や生活の変化について、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 日本が15年間戦争をやめられなかった原因を当時の社会構造に着目して追究しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数11時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 4時	<p>単元課題：なぜ、日本は15年もの間、戦争をやめることができなかったのだろうか。</p> <p>1 15年間続いた戦争の結末や犠牲について学び、単元課題を提示し、キーワードを基に予想する。</p> <p>2 世界恐慌と行き詰まる日本について世界恐慌は世界や日本にどのような影響を与えたのかを考える。</p> <p>3 強まる軍部と衰える政党について軍部が台頭していく経緯に着目して政党政治の変化を考える。</p> <p>4 日中戦争と国民生活について戦争を進めるための政策を理解する。</p>	<p>□ 単元課題に対し、予想を立て、考察に必要な視点及び視座を設定しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>□ Padlet に各時間の学習の学びが記述している。 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>□ 世界恐慌が与えた影響や人々が軍部を支持するようになった理由を考察している。 【思考・判断・表現】</p> <p>□ 欧米諸国が行った経済政策の内容やファシズムの台頭、戦時下の国民の生活について理解している。 【知識・技能】</p>
第二次 4時	<p>5 第二次世界大戦が開戦されるまでの経緯や展開を理解する。</p> <p>6 太平洋戦争と植民地支配の変化について考える。</p>	<p>□ 第二次世界大戦中と終戦時の日本と各国との関係を理解している。 【知識・技能】</p>
第三次 3時 本時 2/3	<p>7 単元課題に対するまとめを視点及び視座別に行う。</p> <p>8 考察したまとめを視点及び視座別のグループで共有し、再考察したものを班で共有し、それぞれの原因の比率を考察、説明させる。</p> <p>9 全体で共有し、互いに評価を行う。</p>	<p>□ 学習者同士で意見を述べ合い、考察にいかそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>□ 単元課題に対するまとめを多面的・多角的な視点で考察し、それぞれの原因の比率について説明している。 【思考・判断・表現】</p>

5 本時 令和7年7月3日(木) 第5校時 於: 3年5組教室

(1) 主眼

日本が15年間戦争をやめられなかった原因について、視点及び視座(政治・経済・外交・軍部・政府・国民)別のグループで考えを共有し、意見を出し合う活動を通して、それぞれの原因の比率を考察し、相互に関連付けて説明できるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

- ① 本時の学習意欲を喚起するために、前時までに考察する視点及び視座を決定させ、資料やタブレットを活用して考察を行い、まとめさせる。
- ② 学習意欲を持続させるために、Padletを活用し、自分の意見が可視化できるようにする。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

自分の考えに、他者の意見や他の情報などを取り入れて自分の考えを再構築させるために、Padletを用いて視点及び視座別のグループで共有し、「いいね」や「コメント」を出し合わせる。(考えの共有・情報の整理)

(3) 準備

教科書、学習プリント、タブレット

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)	配時
見通す	1 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてをつくる。	○ 本時の学習意欲を喚起するために、前時までに考察した内容を復習する。 【着眼1①】	5
つくる	2 視点及び視座別のグループで共有し、意見を出し合う。 予想される生徒の考え <政治>軍部が力もちすぎていて、暴走を止める機関が存在しない。 <経済>世界恐慌により、経済が回らなくなっていた。 <外交>国際連盟からの脱却で、国際的に孤立していた。 <視座>軍部が、戦況を正確に伝えなかった。 政府が、軍部の言いなりになっていた。 国民は「戦争に勝てば日本が強くなる」と信じていた。	○ 自分の考えを広げたり、足りない要素に気付かせたりするために、Padletを活用させ、「いいね」や「コメント」を送らせる。また、考える視点及び視座が間違っただ生徒がいる場合は、そこに気付けるようなアドバイスを行う。【着眼1②】・【着眼2】	10

深める	3 班で再考察し、班員に説明する。	○ 自分の考えを深めるために、Padlet 上のコメントを参考に、再考させ、班で説明させる。また、多面的・多角的に考察させるために、グループ内で意見を共有させる。	10
まとめる	4 それぞれの原因の比率を円グラフで表し、理由を説明する。	○ 比率を分かりやすく捉えさせるために、円グラフで表現させる。 ○ 次時で評価しやすくするために、まとめたものを Padlet にアップさせる。 ※ 日本が 15 年間戦争をやめられなかった原因について、世界の動きと日本との関連などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、それぞれの原因の比率を考察し、説明することができる。(Padlet 上の考察の内容) 【思考・判断・表現】	20
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 日本が 15 年もの間、戦争をやめることができなかったのは、政治・経済・外交・軍部・政府・国民にそれぞれ原因がある。</p> </div>			
振り返る	5 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>予想される生徒の反応 同じ視点の人と意見を共有することで、自分が気付けていない部分が分かり、より深い考察ができた。</p> </div>	○ 本時の学習内容で理解できたことを確認するために、振り返りを行わせる。	5